# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「札幌校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>現代社会の情報活用 | **クラス**<br>09 |
| **担当教員**<br>石川　智浩 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>月４ | **講義室**<br>305教室、305教室 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>USY-CBS-1-003J |
| **科目区分**<br>現代社会の情報活用 | **単位区分**<br>必 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800012410&formatCD=1 |

## 講義情報

**授業形態**

講義とPCを使った演習

**授業概要**

今後のデジタル社会においては，数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことが求められます。また，数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を基に，これらを扱う際には，人間中心の適切な判断ができ，不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し，活用できるようになることも求められます。そのため，本授業では，社会におけるデータ・AI利活用について考えたり，各自が持参した端末を用いて，実際にデータを読んだり扱ったり説明したりする演習を行います。同時に，データ・AIが引き起こす課題についてグループディスカッション等を通して捉えるようにします。

**対応するディプロマ・ポリシー**

**教員養成課程**

教員としての豊かな人間性，幅広い教養と知性，主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。

**到達目標**

1. データ・AIによって社会及び日常生活が大きく変化していることを理解する。
2. 数理・データサイエンス・AIが，今後の社会における「読み・書き・そろばん」であることを理解する。
3. データ・AIの活用領域の広がりを理解し，データ・AIを活用する価値を説明できる。
4. データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
5. データ駆動社会におけるリスクや猛威について理解する。
6. 個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
7. スプレッドシート等を使って，小規模データ（数百件～数千件レベル）を集計・加工できる。
8. AIの得意なところ，苦手なところを理解し，人間中心の適切な判断ができる。
9. 社会の実データ，実課題を適切に読み解き，起きている事象の背景や意味を判断できる。
10. 電子メールによる、メッセージや添付ファイルの受発信ができる。
11. ワードプロセッサーの基本的操作を学習し、図表などを組み合わせたレイアウトが出来る。
12. プレゼンテーションソフトウェアの基本的操作を学習し、視覚的効果を使ったプレゼンテーションを作成することが出来る。

**授業計画**

初回授業は，下記にある「備考（履修上の注意等）」をよく読んで
事前準備をお願いいたします。
主に，パソコン側のソフト・WiFi環境・ログイン環境の用意となります。

第１回：PCを使った情報共有の基本
第２回：Excelの基礎
第３回：データ分析の基礎
第４回：アルゴリズムの基礎
第５回：情報リテラシー及びプログラミング教育①
第６回：プログラミング教育②
第７回：Society5.0におけるビッグデータとAIの活用
第８回：仮説検証プロセスとオープンデータ活用
第９回：情報セキュリティとデータ倫理
第10回：AIと機械学習の実践入門
第11回～15回：情報活用技術入門（専攻独自の講義内容）
※授業内容を身に付けるために，各回の予復習に取り組む時間を週4時間以上必要とします。

担当教員予定
第1,2回　石川先生
第3,4回　今先生
第5,6回　増渕先生
第7,8回　髙橋先生
第9,10回　浅野先生
第11回以降は技術科教員の予定です。

## 成績評価

成績評価
【評価方法】
①第１回から第10回（70点）
・各回で実施する小テスト(到達目標1～9に対応)をもとに評価
第１回（到達目標1）、第２回（到達目標7）、第３回（到達目標3,9）
第４回（到達目標3）、第５回（到達目標2）、第６回（到達目標3）
第７回（到達目標1）、第８回（到達目標8）、第９回（到達目標4,5,6）
第10回（到達目標8）
・各１回ごとのテストは7点満点
②第11回から第15回（30点）
・各専攻で課す課題 (到達目標10に対応)をもとに評価
【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下
【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。
■第1～10回
第10回までで計3回以上の欠席は単位を認定することができません。
■第11回～15回
第1～10回までの分も合わせて合計4回以上の欠席は単位を認定することができません。

## 教職チェックリスト

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

必要に応じて資料データを配付します。

## 参考文献

参考文献
・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報教育実践論：これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

## オフィス・アワー

## 備考（履修上の注意等）

・コンピュータを活用しながら授業を進めます。ノートパソコン及び電源アダプタを持参してください。
・ノートパソコンは事前に充電をしておいてください（大学講義室は壁・廊下側などにコンセント数が限られ，他の学生の充電で埋まっている可能性があります）。
・講義前に，必ず大学WiFiに事前に接続をしておいてください。
・講義でインターネットの検索ブラウザGoogleChromeを使います。必ず事前にインストールしておいてください（Edgeというブラウザだと不具合が生じる可能性があります）
・GoogleChromeブラウザは，大学アカウントでログインをしておいてください。個人アカウントは使えません。
・繰返しになりますが，大学から発行されたアカウントとパスワードでGoogleのアプリやCBT等にアクセスします。個人アカウントは使えません。必ず大学のアカウントでログインができるようにしてください。
・授業が始まる前に，各自の BYOD 端末に，本学で包括ライセンス契約をしている Microsoft 365 を必ずインストールしておいてください．インストール手順書は以下のページに用意されています。
https://hokkyodai.sharepoint.com/sites/kakujoho/SitePages/Microsoft365-Office.aspx
・第7回(Excelの基礎)・第8回(データ分析の基礎)は，事前配布資料(授業解説スライドおよび演習課題シート)があります．必ず事前にダウンロードしてから授業に出席してください。
・第9回（アルゴリズムの基礎）では，イヤホンまたはヘッドホンの持参とソフトウエア「Sonic Pi」の事前インストールが必要です。
・第10回（情報リテラシー及びプログラミング教育①）では，GoogleFormで情報リテラシーの課題（20問）があります。忘れずに実施してください。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「旭川校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>現代社会の情報活用 | **クラス**<br>07 |
| **担当教員**<br>植田　優基 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>木４ | **講義室**<br>L202、L202 |
| **科目種別**<br>学部用(新ｶﾘｷｭﾗﾑ) | **ナンバリング**<br>UAY-CBS-1-004J |
| **科目区分**<br>情報機器の操作 | **単位区分**<br>必 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800012120&formatCD=1 |

## 講義情報

### 授業形態

講義とPCを使った演習

### 授業概要

今後のデジタル社会においては，数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことが求められます。また，数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を基に，これらを扱う際には，人間中心の適切な判断ができ，不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し，活用できるようになることも求められます。そのため，本授業では，社会におけるデータ・AI利活用について考えたり，各自が持参した端末を用いて，実際にデータを読んだり扱ったり説明したりする演習を行います。同時に，データ・AIが引き起こす課題についてグループディスカッション等を通して捉えるようにします。

### 対応するディプロマ・ポリシー

#### 教員養成課程

教員としての豊かな人間性，幅広い教養と知性，主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。
教職における使命感や責任感，倫理観及び教育的愛情をもって子どもを理解しようとする態度を身に付けている。
教育に関する専門的知識及び技能を身に付けている。
教育に関する理論及び方法を活かし，教育実践を展開する基礎を身に付けている。
現代の学校教育現場の多様な課題を理解し，適切な対応を考えることができる。
学校づくりを担う一員としての役割を理解し，社会性やコミュニケーション能力を養い，地域等と連携・協働する態度を身に付けている。

### 到達目標

1. データ・AIによって社会及び日常生活が大きく変化していることを理解する。
2. 数理・データサイエンス・AIが，今後の社会における「読み・書き・そろばん」であることを理解する。
3. データ・AIの活用領域の広がりを理解し，データ・AIを活用する価値を説明できる。
4. データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
5. データ駆動社会におけるリスクや猛威について理解する。
6. 個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
7. スプレッドシート等を使って，小規模データ（数百件～数千件レベル）を集計・加工できる。
8. AIの得意なところ，苦手なところを理解し，人間中心の適切な判断ができる。

9. 社会の実データ，実課題を適切に読み解き，起きている事象の背景や意味を判断できる。
10. （各専攻分野が設定する到達目標）

## 授業計画

第１回：PCを使った情報共有の基本
第２回：Excelの基礎
第３回：データ分析の基礎
第４回：アルゴリズムの基礎
第５回：情報リテラシー及びプログラミング教育①
第６回：プログラミング教育②
第７回：Society5.0におけるビッグデータとAIの活用
第８回：仮説検証プロセスとオープンデータ活用
第９回：情報セキュリティとデータ倫理
第10回：AIと機械学習の実践入門
第11回：導入：情報機器, プログラミングとは何か (数学教育専攻分野の内容)
第12回：Excelによる数学：代表値計算, 成績表を作成してみよう (数学教育専攻分野の内容)
第13回：Excelによる数学：乱数生成, モンテカルロシミュレーション (数学教育専攻分野の内容)
第14回：Maxima入門 ① (数学教育専攻分野の内容)
第15回：Maxima入門 ② (数学教育専攻分野の内容)

※授業内容を身に付けるために，各回の予復習に取り組む時間を週4時間以上必要とします。
※「数学教育専攻分野の内容」と記載された内容と記載されているシラバスの順番が前後することがあります。
※詳しくは１回目のオリエンテーションで説明します。

## 成績評価

成績評価
【評価方法】
①第１回から第10回（70点）
・各回で実施する小テスト(到達目標1～9に対応)をもとに評価
第１回（到達目標1）、第２回（到達目標7）、第３回（到達目標3,9）
第４回（到達目標3）、第５回（到達目標2）、第６回（到達目標3）
第７回（到達目標1）、第８回（到達目標8）、第９回（到達目標4,5,6）
第10回（到達目標8）
・各１回ごとのテストは7点満点
②第11回から第15回（30点）
・各専攻で課す課題 (到達目標10に対応)をもとに評価
【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下
【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。
■第1～10回
第10回までで計3回以上の欠席は単位を認定することができません。
■第11回～15回
第1～10回までの分も合わせて合計4回以上の欠席は単位を認定することができません。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

1-1-1 大学の図書館やインターネットなどを使って、専門領域に関連した必要な情報を積極的に収集・活用し、自己学習の発展向上を図る。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

第1～10回では必要に応じて資料データを配付します。
第11～15回では各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

[Maxima入門で使用するテキスト]
北海道教育大学旭川校 理科教育専攻 小山 耕平先生の講義資料
「９０分でわかる無料数学ソフトMaxima」を使用して授業を行います。
資料は以下のURLから入手することができます。
https://researchmap.jp/multidatabases/multidatabase_contents/detail/265278/0642c5af25bd42720a0b4f737b07615c?frame_id=804283

## 参考文献

参考文献
・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社
その他，第11～15回での各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

## 関連する授業科目

情報教育実践論：これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

## オフィス・アワー

オフィス・アワー：火2限
連絡先：ueda.yuki@a.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

・コンピュータを活用しながら授業を進めます。ノートパソコン及び電源アダプタを持参してください。
・大学から発行されたアカウントとパスワードでGoogleのアプリやCBT等にアクセスします。個人アカウントは使えません。必ず大学のアカウントでログインができるようにしてください。
・授業が始まる前に，各自の BYOD 端末に，本学で包括ライセンス契約をしている Microsoft 365 を必ずインストールしておいてください．インストール手順書は以下のページに用意されています。
https://hokkyodai.sharepoint.com/sites/kakujoho/SitePages/Microsoft365-Office.aspx
・第2回(Excelの基礎)・第3回(データ分析の基礎)は，事前配布資料(授業解説スライドおよび演習課題シート)があります．必ず事前にダウンロードしてから授業に出席してください。
・第4回（アルゴリズムの基礎）では，イヤホンまたはヘッドホンの持参とソフトウエア「Sonic Pi」の事前インストールが必要です。
・第5回（情報リテラシー及びプログラミング教育①）では，GoogleFormで情報リテラシーの課題（20問）があります。忘れずに実施してください。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「釧路校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>現代社会の情報活用 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>廣重　真人 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>月２ | **講義室**<br>マルチメディア室、マルチメディア室 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>UKR-CBS-1-025J、UKY-CBS-1-025J |
| **科目区分**<br>情報機器の操作 | **単位区分**<br>必 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800012046&formatCD=1 |

## 講義情報

### 授業形態

講義とPCを使った演習

### 授業概要

今後のデジタル社会においては，数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことが求められます。また，数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を基に，これらを扱う際には，人間中心の適切な判断ができ，不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し，活用できるようになることも求められます。そのため，本授業では，社会におけるデータ・AI利活用について考えたり，各自が持参した端末を用いて，実際にデータを読んだり扱ったり説明したりする演習を行います。同時に，データ・AIが引き起こす課題についてグループディスカッション等を通して捉えるようにします。

### 対応するディプロマ・ポリシー

#### 教員養成課程

教員としての豊かな人間性，幅広い教養と知性，主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。

### 到達目標

1. データ・AIによって社会及び日常生活が大きく変化していることを理解する。
2. 数理・データサイエンス・AIが，今後の社会における「読み・書き・そろばん」であることを理解する。
3. データ・AIの活用領域の広がりを理解し，データ・AIを活用する価値を説明できる。
4. データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
5. データ駆動社会におけるリスクや猛威について理解する。
6. 個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
7. スプレッドシート等を使って，小規模データ（数百件～数千件レベル）を集計・加工できる。
8. AIの得意なところ，苦手なところを理解し，人間中心の適切な判断ができる。
9. 社会の実データ，実課題を適切に読み解き，起きている事象の背景や意味を判断できる。
10. MS Word, MS Powerpoint の基本的な操作方法を習得する。

### 授業計画

第１回：PCを使った情報共有の基本
第２回：Excelの基礎

第３回：データ分析の基礎
第４回：アルゴリズムの基礎
第５回：情報リテラシー及びプログラミング教育①
第６回：プログラミング教育②
第７回：Society5.0におけるビッグデータとAIの活用
第８回：仮説検証プロセスとオープンデータ活用
第９回：情報セキュリティとデータ倫理
第10回：AIと機械学習の実践入門
第11回：学校教育・発達教育クラス独自内容: MS word (1)
第12回：学校教育・発達教育クラス独自内容: MS word (2)
第13回：学校教育・発達教育クラス独自内容: MS word (3)
第14回：学校教育・発達教育クラス独自内容: MS powerpoint (1)
第15回：学校教育・発達教育クラス独自内容: MS powerpoint (1)
※授業内容を身に付けるために，各回の予復習に取り組む時間を週4時間以上必要とします。

## 成績評価

成績評価
【評価方法】
①第１回から第10回（70点）
・各回で実施する小テスト(到達目標1～9に対応)をもとに評価
第１回（到達目標1）、第２回（到達目標7）、第３回（到達目標3,9）
第４回（到達目標3）、第５回（到達目標2）、第６回（到達目標3）
第７回（到達目標1）、第８回（到達目標8）、第９回（到達目標4,5,6）
第10回（到達目標8）
・各１回ごとのテストは7点満点
②第11回から第15回（30点）
・各専攻で課す課題 (到達目標10に対応)をもとに評価
【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下
【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。
■第1～10回
第10回までで計3回以上の欠席は単位を認定することができません。
■第11回～15回
第1～10回までの分も合わせて合計4回以上の欠席は単位を認定することができません。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

第1～10回では必要に応じて資料データを配付します。
第11～15回では各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

## 参考文献

参考文献
・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社
その他，第11～15回での各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

## 関連する授業科目

情報教育実践論：これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

## オフィス・アワー

担当教員広重は基本的に C304 在室中は随時質問などを受け付ける。

## 備考（履修上の注意等）

・コンピュータを活用しながら授業を進めます。ノートパソコン及び電源アダプタを持参してください。
・大学から発行されたアカウントとパスワードでGoogleのアプリやCBT等にアクセスします。個人アカウントは使えません。必ず大学のアカウントでログインができるようにしてください。
・授業が始まる前に，各自の BYOD 端末に，本学で包括ライセンス契約をしている Microsoft 365 を必ずインストールしておいてください．インストール手順書は以下のページに用意されています．
https://hokkyodai.sharepoint.com/sites/kakujoho/SitePages/Microsoft365-Office.aspx
・第2回(Excelの基礎)・第3回(データ分析の基礎)は，事前配布資料(授業解説スライドおよび演習課題シート)があります．必ず事前にダウンロードしてから授業に出席してください．
・第4回（アルゴリズムの基礎）では，イヤホンまたはヘッドホンの持参とソフトウエア「Sonic Pi」の事前インストールが必要です。
・「情報リテラシー及びプログラミング教育①」ではGoogleFormで情報リテラシーの課題（20問）があります。忘れずに実施してください。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「函館校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>現代社会の情報活用 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>京谷　雅代 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>火６ | **講義室**<br>第1講義室、第1講義室 |
| **科目種別** | **ナンバリング** |
| **科目区分**<br>現代社会の情報活用 | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800012213&formatCD=1 |

## 講義情報

**授業形態**

講義とPCを使った演習

**授業概要**

今後のデジタル社会においては，数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことが求められます。また，数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を基に，これらを扱う際には，人間中心の適切な判断ができ，不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し，活用できるようになることも求められます。そのため，本授業では，社会におけるデータ・AI利活用について考えたり，各自が持参した端末を用いて，実際にデータを読んだり扱ったり説明したりする演習を行います。同時に，データ・AIが引き起こす課題についてグループディスカッション等を通して捉えるようにします。

**対応するディプロマ・ポリシー**

**国際地域学科 地域協働専攻**

幅広く深い教養と豊かな人間性を身に付けている。
教育学的視点と地域学の基本的知識を身に付けている。
地域学を支える諸科学の専門知識を身に付けている。
地域社会の課題を調査・研究し，その成果を国際的視野を持って他者に伝えるコミュニケーションの能力と方法を身に付けている。

**到達目標**

1. データ・AIによって社会及び日常生活が大きく変化していることを理解する。
2. 数理・データサイエンス・AIが，今後の社会における「読み・書き・そろばん」であることを理解する。
3. データ・AIの活用領域の広がりを理解し，データ・AIを活用する価値を説明できる。
4. データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
5. データ駆動社会におけるリスクや猛威について理解する。
6. 個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
7. スプレッドシート等を使って，小規模データ（数百件～数千件レベル）を集計・加工できる。
8. AIの得意なところ，苦手なところを理解し，人間中心の適切な判断ができる。
9. 社会の実データ，実課題を適切に読み解き，起きている事象の背景や意味を判断できる。
10. 国際協働グループにおける学習で必要となる，コンピュータの操作に関わる基本知識と技能が身に付いている。

## 授業計画

第１回：PCを使った情報共有の基本
第２回：Excelの基礎
第３回：データ分析の基礎
第４回：アルゴリズムの基礎
第５回：情報リテラシー及びプログラミング教育①
第６回：プログラミング教育②
第７回：Society5.0におけるビッグデータとAIの活用
第８回：仮説検証プロセスとオープンデータ活用
第９回：情報セキュリティとデータ倫理
第10回：AIと機械学習の実践入門
第11回：Excel実践①(データの入力、ファイル作成、共有化など)
第12回：Excel実践②(名簿・一覧表の操作、データの活用)
第13回：Excel実践③(関数を使用した集計)
第14回：Excel実践④(関数を用いた座席表や時間割表などの作成)
第15回：Excel実践⑤(名簿作成支援)、授業のまとめ、試験

※授業内容を身に付けるために，各回の予復習に取り組む時間を週4時間以上必要とします。

## 成績評価

【評価方法】
①第１回から第10回（70点）
・各回で実施する小テスト(到達目標1～9に対応)をもとに評価
第１回（到達目標1）、第２回（到達目標7）、第３回（到達目標3,9）
第４回（到達目標3）、第５回（到達目標2）、第６回（到達目標3）
第７回（到達目標1）、第８回（到達目標8）、第９回（到達目標4,5,6）
第10回（到達目標8）
・各１回ごとのテストは7点満点
②第11回から第15回（30点）
・各グループで課す課題 (到達目標10に対応)をもとに評価
【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下
【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。
■第1～10回
第10回までで計3回以上の欠席は単位を認定することができません。
■第11回～15回
第1～10回までの分も合わせて合計4回以上の欠席は単位を認定することができません。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

第１回～第１０回は、必要に応じて資料データを配布します。
第１１回～第１５回は、次のテキストを使用します。
久保栄（２０２４）『教師のExcel～校務（個人業務＋チーム業務）カイゼンのためのデジタルリテラシー～』技術評論社

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報教育実践論：これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

## オフィス・アワー

授業の前後に受け付ける。

## 備考（履修上の注意等）

・コンピュータを活用しながら授業を進めます。ノートパソコン及び電源アダプタを持参してください。
・大学から発行されたアカウントとパスワードでGoogleのアプリやCBT等にアクセスします。個人アカウントは使えません。必ず大学のアカウントでログインができるようにしてください。
・授業が始まる前に，各自の BYOD 端末に，本学で包括ライセンス契約をしている Microsoft 365 を必ずインストールしておいてください．インストール手順書は以下のページに用意されています。
https://hokkyodai.sharepoint.com/sites/kakujoho/SitePages/Microsoft365-Office.aspx
・第2回(Excelの基礎)・第3回(データ分析の基礎)は，事前配布資料(授業解説スライドおよび演習課題シート)があります．必ず事前にダウンロードしてから授業に出席してください。
・第4回（アルゴリズムの基礎）では，イヤホンまたはヘッドホンの持参とソフトウエア「Sonic Pi」の事前インストールが必要です。
・第5回（情報リテラシー及びプログラミング教育①）では，GoogleFormで情報リテラシーの課題（20問）があります。忘れずに実施してください。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

あり

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「岩見沢校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>現代社会の情報活用 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>鈴木　哲平、武田　丈太郎 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>月４ | **講義室**<br>CR（mac）、CR（mac）、CR（win）、CR（win） |
| **科目種別**<br>学部用(新ｶﾘｷｭﾗﾑ) | **ナンバリング**<br>UIZ-CBS-1-5J |
| **科目区分**<br>教養(情報機器の操作) | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800012263&formatCD=1 |

## 講義情報

**授業形態**

講義とPCを使った演習

**授業概要**

今後のデジタル社会においては，数理・データサイエンス・AIを日常の生活や仕事等の場で使いこなすことが求められます。また，数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を基に，これらを扱う際には，人間中心の適切な判断ができ，不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し，活用できるようになることも求められます。そのため，本授業では，社会におけるデータ・AI利活用について考えたり，各自が持参した端末を用いて，実際にデータを読んだり扱ったり説明したりする演習を行います。同時に，グループディスカッション等を通して，データ・AIが引き起こす課題について考えます。

**対応するディプロマ・ポリシー**

**教員養成課程**

教員としての豊かな人間性，幅広い教養と知性，主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。

**国際地域学科 地域協働専攻**

幅広く深い教養と豊かな人間性を身に付けている。

**国際地域学科 地域教育専攻**

幅広く深い教養と豊かな人間性を身に付けている。

**芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。

**芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。

### 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。

### 芸術・スポーツ文化学科 スポーツ文化専攻

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。

## 到達目標

・データ・AIによって社会及び日常生活が大きく変化していることを理解する。
・数理・データサイエンス・AIが，今後の社会における「読み・書き・そろばん」であることを理解する。
・データ・AIの活用領域の広がりを理解し，データ・AIを活用する価値を説明できる。
・データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理について理解する。
・データ駆動社会におけるリスクや猛威について理解する。
・個人のデータを守るために留意すべき事項を理解する。
・スプレッドシート等を使って，小規模データ（数百件～数千件レベル）を集計・加工できる。
・AIの得意なところ，苦手なところを理解し，人間中心の適切な判断ができる。
・社会の実データ，実課題を適切に読み解き，起きている事象の背景や意味を判断できる。

## 授業計画

第１回：PCを使った情報共有の基本
第２回：アルゴリズムの基礎
第３回：情報リテラシーCBT及びプログラミング教育①
第４回：プログラミング教育②
第５回：Society5.0におけるビッグデータとAIの活用
第６回：仮説検証プロセスとオープンデータ活用
第７回：情報セキュリティとデータ倫理
第８回：Excelの基礎
第９回：データ分析の基礎
第10回：AIと機械学習の実践入門
第11回：芸術・スポーツビジネス専攻分野の内容に関するWordの基礎
第12回：芸術・スポーツビジネス専攻分野の内容に関するPowerPointの基礎①
第13回：芸術・スポーツビジネス専攻分野の内容に関するPowerPointの基礎②
第14回：芸術・スポーツビジネス専攻分野の内容に関するプレゼンテーション①
第15回：芸術・スポーツビジネス専攻分野の内容に関するプレゼンテーション②

## 成績評価

成績評価
【評価方法】
■第1～10回（70点）
授業における確認テストや提出物などの課題を点数化して行う。
■第11～15回（30点）
各専攻分野が設定する課題を点数化して行う。
【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下
【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。
■第1～10回
1/3以上 (3回以上) の欠席は単位を認定することができません。
■第11回～15回
1～10回までの分も合わせて合計4回以上の欠席は単位を認定することができません。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

第1～10回では必要に応じて資料データを配付します。
第11～15回では各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

## 参考文献

参考文献
・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社
その他，第11～15回での各専攻分野の授業担当者からの指示に従ってください。

## 関連する授業科目

情報教育実践論：これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

## オフィス・アワー

## 備考（履修上の注意等）

コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。ノートパソコンを持参してください。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験